※第１章　日本の主要物流企業の組見本

オーシャントランス㈱

〒800-0113　福岡県北九州市門司区新門司北1-12
Tel. 093-481-7711　Fax. 093-481-7720
ホームページアドレス　http://www.ocean-trans.co.jp

髙松勝三郎　社長

【設立】1970年（昭和45年）９月
【資本金】1,200百万円（2013年３月末現在）
【主要株主】王子ホールディングス、日本郵船、関光汽船、新日本海フェリー
【取引銀行】三井住友銀行、三菱東京ＵＦＪ銀行、みずほ銀行、福岡銀行、徳島銀行
【従業員数】206人（2013年３月現在）
【売上高】20,417百万円＝2013年３月期
【部門別比率】フェリー事業42％、内航事業49％、外航事業９％
【事業種目】一般自動車及び旅客の海上輸送、貨物運送取扱、産業廃棄物収集運搬、一般貨物船運航、他
【主要荷主】王子製紙、王子物流、関光汽船、ゼロ
【主な事業所】北九州本店（北九州市門司区新門司北1-12）、東京本社（東京都中央区築地3-11-6　築地スクエアビル4F）、徳島支店（徳島市津田海岸町9-5）、東京港事務所（東京都江東区有明4-8-6）、内航事業部（徳島県阿南市豊益町吉田１番地）、東京支店（東京都中央区築地3-11-6　築地スクエアビル4F）、外航事業部（東京都中央区築地3-11-6　築地スクエアビル4F）
【営業用施設・機器】保有船舶７隻（46,507総トン）。トレーラ440台
【取得認証・認定資格】任意のISM（International Safety Manegement）

【プロフィール】当社は2008年10月旧オーシャン東九フェリー（株）と旧王子海運（株）が合併し、更に2011年４月外航海運事業を行なっていた東海商船（株）を傘下に入れ、外航事業に進出しました。東京（有明）－徳島－北九州（新門司）をデイリーで結ぶフェリー事業に加え、内航貨物船による内航事業、外航チップ船による外航事業と３本柱で、今後とも利用者各位の輸送ニーズに応えていきます。

【役員担当一覧】（2013．11．1　現在）

代表取締役社長	髙松勝三郎		64	取締役	伊川　重夫	徳島支店長兼外航事業部総務経理部担当	61	取締役	野崎　哲一	非常勤	58
専務取締役	中村　覚	総務経理部	63	〃	中村　憲一	北九州本店長	61	常勤監査役	前田　博恒		65
〃	原地　國繁	内航事業部	62	〃	本橋　淳	外航事業部	60	監査役	薄井　正章	非常勤	63
常務取締役	辰巳　順	フェリー事業部	59	〃	入谷　一成	非常勤	65	監査役	吉田　明博	〃	50
				〃	佐々木正美	〃	61				

Otsuka 大塚倉庫㈱

〒552-0006　大阪府大阪市港区石田1-3-16
Tel. 06-6576-5921　Fax. 06-6575-3876
http://www.otsukawh.co.jp

大塚太郎　社長

【設立】1961年（昭和36年）11月
【資本金】800百万円（2013年３月末現在）
【主要株主】大塚ホールディングス
【取引銀行】阿波銀行、りそな銀行
【従業員数】379人（2013年３月末現在）
【売上高】40,574百万円＝2013年３月期
【部門別比率】倉庫関連事業25％、運送関連事業56％、他事業19％
【当期純利益】1,442百万円＝2013年３月期
【事業種目】一般貨物自動車運送、普通倉庫、貨物運送取扱、不動産、損害保険代理、生命保険募集
【主要荷主】大塚製薬、大塚製薬工場、大塚化学、大塚食品、アース製薬
【主な事業所】北海道支店、東京支店、名古屋支店、大阪支店、九州支店、四国支店

【プロフィール】当社は1961年の創業以来、主として大塚グループの医薬品をはじめ飲料・食品等、多種にわたる商品の調達から生産・販売に至るまでの物流需要に即応すべく、包括的な物流のシステム化とこれに伴う情報システムの強化と推進をしてまいりました。時代が大きく変わりつつある昨今、お客様のニーズに充分お応えできる確かな物流品質とサービス面の充実が切望されております。当社は、お客様のそうしたご要望にお応えすべく、企業経営におけるロジスティクスの重要性を認識し40年以上の物流運営を通じて培ったノウハウを活用し、医薬品・食品の物流ビジネスを総合的に支援するため、安心・安全かつ確実な物流品質と物流コスト削減を実施しております。医薬品・食品のロジスティクスサービスプロバイダーとして、常にお客様の立場で新しい物流システムを創造し、提案し続けます。

【役員担当一覧】（2013．10．1　現在）

代表取締役会長	山崎　勝也	58	取締役	藤原　欽一	ロジスティクスシステム部長	56	常勤監査役	澤田　耕三	56
代表取締役社長	大塚　太郎	39	〃	濵長　一彦	営業本部長	45	監査役	仲井　昭仁	72
専務取締役	田中　成司	52							

※第２章　主要物流企業302社の物流管理の組見本

カ　ゴ　メ　㈱

【本社】〒460-0003 名古屋市中区錦3の14の15 ℡052（951）3571【東京本社】〒103-8461 東京都中央区日本橋浜町3の21の1、℡03（5623）8501【工場】那須、茨城、富士見など【資本金】199億8500万円【社長】西　秀訓【事業】調味料、飲料製造、販売など【売上高】年間1800億4700万円＝2012年３月期（連結）

【物流管理部門】東京本社経営管理本部ＳＣＭ部
【物流子会社】カゴメ物流サービス（〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-20-7、℡03-5823-2870）
【物流コスト】年間の運賃・保管料は86億4800万円＝12年３月期（単独）
【物流拠点】常温製品の中央拠点は栃木、茨城、長野、愛知（２工場）、静岡の６工場内倉庫。地方ＳＰは茨城、千葉、東京、愛知、大阪、福岡の６ヵ所に設置。チルド商品は愛知（小牧市）で、地方ストックポイントは別に設置。常温品の受注センターは東京と名古屋の２拠点体制。チルドの受注センターと需給調整センターは愛知（小牧市）
【輸送機関】トラック83％、鉄道12％、海運５％
【利用物流業者】物流子会社のカゴメ物流サービスが元請。主な利用業者は全国通運、美野里運送倉庫、栃木県北通運など。チルド関連は名糖運輸、SBSフレックなど。
【物流管理の特長】SCM構築による物流効率と物流品質の向上を目的に各種施策を実施している。12年１月に関東の物流センターを古河と横浜・鶴見の２つに集約するなど物流拠点の再編を全国的に進めた。需給管理業務を徹底することで生産性を改善するとともに、実需への対応で廃棄ロスを削減し、在庫水準の圧縮を進めている。調達部門と物流部門が連携した調達物流効率化も進め、国内調達の包装材や海外調達の輸入原料なども含めた調達コスト削減に取り組む。10年後半からはSCM本部が常温品やチルド商品等に加え生鮮トマトの物流も担当。アサヒビールとはアサヒロジの車両による幹線輸送を工場間の一部路線で展開しているほか、ギフト商品のセットアップ業務の一部も委託。共同配送はミツカングループ本社、日清オイリオグループと全国で展開し、国土の77％をカバー。13年10月にはマルトモとの業務提携を発表。物流でも相互協力する方針。

カ　ル　ビ　ー　㈱

【本社】〒100-0005 東京都千代田区丸の内1の8の3 ℡03（5220）6222【事業本部】北海道、東日本、中日本、西日本【工場】千歳、新宇都宮、下妻、各務原、綾部、湖南、広島、広島西、鹿児島【資本金】77億5659万円【社長】伊藤秀二【事業】菓子、食品の製造・販売【売上高】年間1794億1100万円（連結）＝2013年3月期

【物流管理部門】本社は物流部。各事業本部（北海道、東日本、中日本、西日本）にも物流部
【物流子会社】スナックフード・サービス（〒321-0905 宇都宮市平出工業団地43-167、℡028-662-3100、永島 悟社長、資本金2000万円、社員134名、売上高84億8400万円＝11年３月期）は全国の受注を担当するほか、現在では全国の配車業務も担当
【物流拠点】千歳、宇都宮、東松山、各務原、滋賀、広島、鹿児島の７ヵ所（それぞれ工場隣接地）の物流センターが中心拠点。受注センターは東松山で全国１拠点体制
【輸送機関】トラック74％、鉄道24％、海運２％（12年度）
【利用物流業者】全国の配車はスナックフード・サービスが担当。大手のほかにも地場の事業者
【物流管理の特長】スナック菓子最大手。本社機能として設置した物流部が物流政策などを担当し、各事業本部の物流担当が実際の運営を行う体制。各部門連携のSCM構築、効率化・ローコストオペレーションを推進。物流コスト、資材廃棄の減少に加えて、積載率やルート改善などが進展。10年８月には段ボールの種類を１割ほど削減して、車両への積載率を高めるなど効果を挙げた。また、スナックフード・サービスが中心となって同業菓子会社などと共同配送を進め積載率7.5％増、車両台数25％削減。最近では原材料の調達物流も一部で始めた。09年から完成品の輸送で鉄道によるモーダルシフトを開始。12年までに主要長距離14ルートのうち３分の１（宇都宮～千歳、広島～鹿児島、宇都宮～広島など）を鉄道利用に切り換え、CO_2を1000㌧削減する計画。物流拠点の統廃合を検討中。